

## 2 - 17 男鹿・仁別における磁気永年変化精密観測

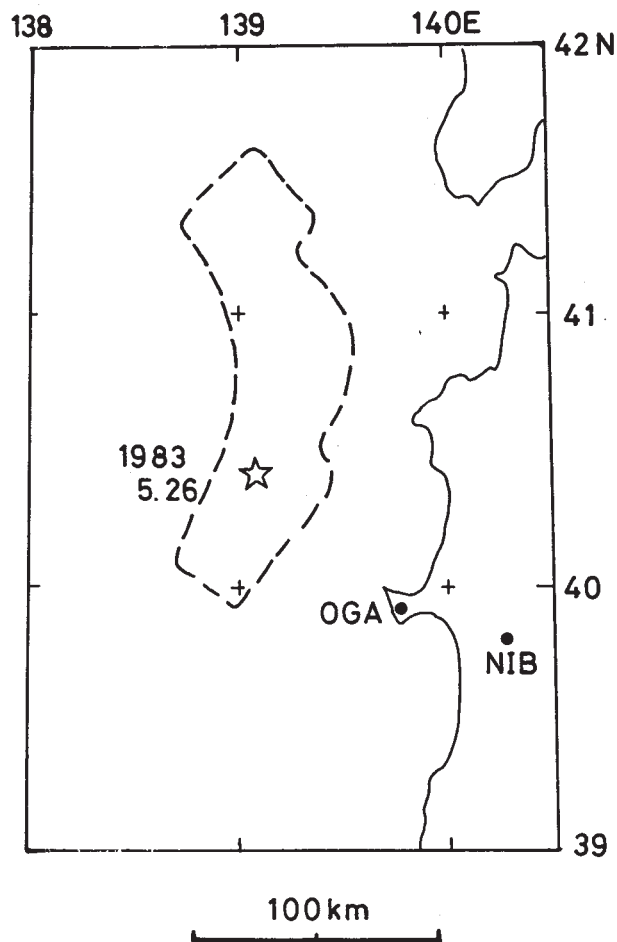
### Precise Observation of Geomagnetic Secular Variation at Oga and Nibetsu

東北大学 理学部  
Faculty of Science, Tohoku University

男鹿観測所と仁別観測所とは、1983年5月26日の日本海中部地震の震央距離がそれぞれ80 kmと120 kmとにある。第1図に観測点の位置と、1983年日本海中部地震の本震震央とその余震域とを示した。この地震に伴った全磁力変化の有無を調べるため、これら2観測点での全磁力差を調べた。

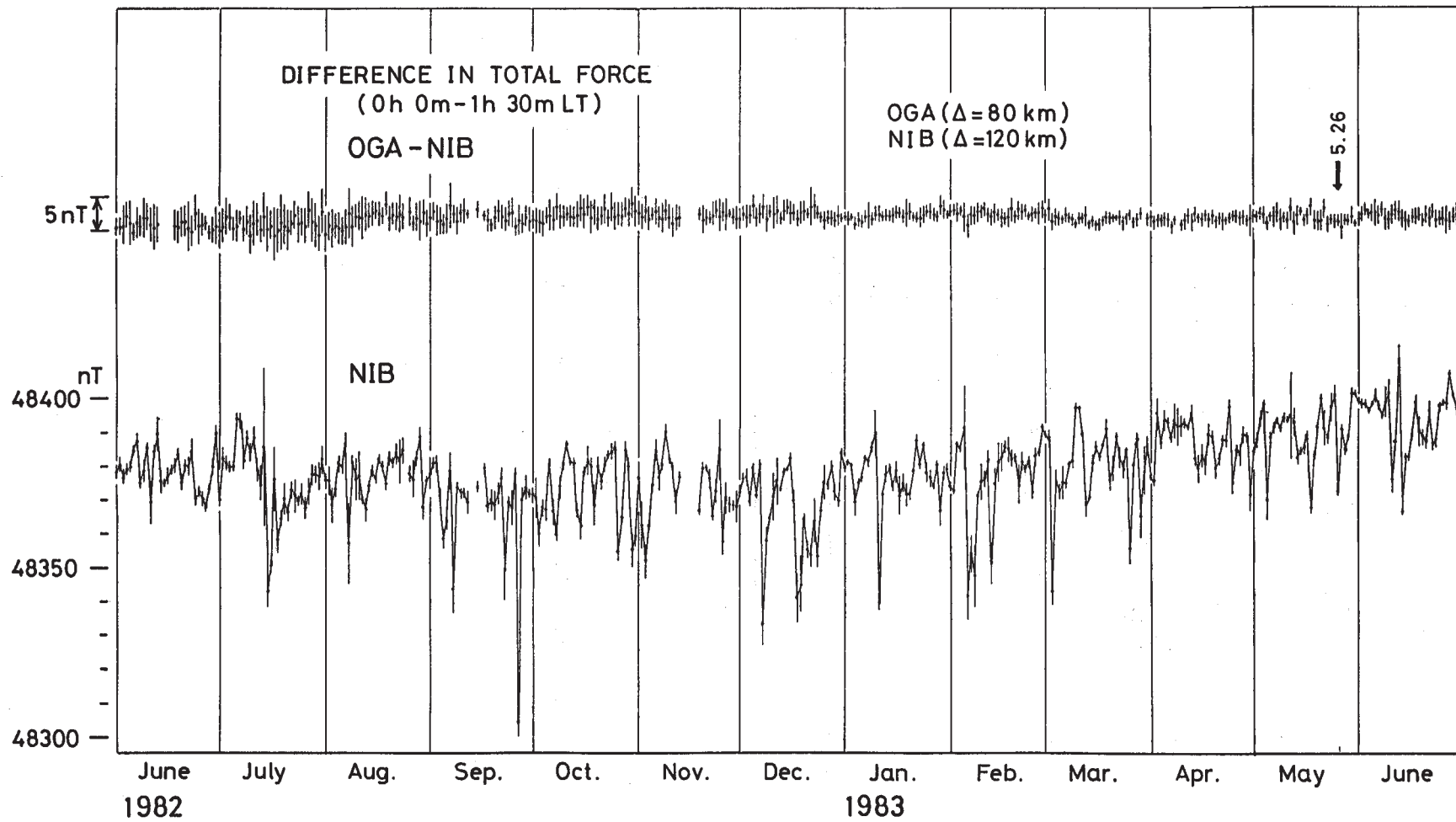
使用した観測資料は00時00分～01時30分（JST）の毎10分値である。各時刻での全磁力差10ケの平均値とその標準偏差とを第2図に示した。また、合わせて仁別での全磁力値の平均値とその標準偏差も図に示した。

図からわかるように、地震の約1年前以後地震直前・直後をも含めて、2点間の全磁力差には、有意な変化がみられない。



第1図 男鹿観測所（OGA）及び仁別観測所（NIB）の位置と1983年日本海中部地震の本震震央（星印）と余震域（破線）

Fig. 1 Locations of Oga (OGA) and Nibetsu (NIB) observatory and epicenter and aftershock area of the 1983 Central Japan Sea Earthquake.



第2図 仁別に対する男鹿の全磁力夜間値差の変化

Fig. 2 Day-to-day change of difference of night time total force at OGA from that at NIB for period from June 1982 to June 1983.